

## ●西神ニュータウンかりば地区

# 空き家活用・すまいのデザインアイデア募集・審査結果

いきいき下町推進協議会

### ●募集の概要

#### 1) 募集の経緯

いきいき下町推進協議会では、2018年度第8期の「景観まちづくり推進員養成講座」を西神ニュータウンのかりば地区で、NPO コミュニティかりば、西神ニュータウン研究会のご協力のもとで実施し、さらに、2019年度には、その成果をもとに「かりばすまいづくりを考える会」を立ち上げ、景観から空き家問題、子育て世代や高齢者の住まい問題にテーマを拡げて話し合ってきました。その活動の一環で、モデル敷地の住宅を空き家として想定し、高齢者の生活や子育て世代の要求を踏まえた多様な居住者が住み続けられる内外空間の提案を求め、外構デザインやすまい方のアイデアを募集しました。

#### 2) 主催：いきいき下町推進協議会（事務局：公益社団法人兵庫県建築士会）

#### 3) 共催：一般財団法人神戸すまいまちづくり公社 NPO 法人コミュニティかりば

#### 4) 募集のテーマ

- ・向こう三軒両隣の居住者がふれあう場を住宅の周りに備え、コミュニティ形成に寄与する空間。
- ・子育て世帯など若い世代を呼び込む魅力ある住宅といえなみ。
- ・高齢者の暮らしにやさしい内外空間の設え。

#### 5) 応募資格 とくにありません。

#### 6) 作品応募締め切り 2020年1月20日（月）

#### 7) 審査会で審査し、最優秀賞 1点 入賞 数点を決定します。

### ●審査の概要と受賞作品

#### 1) 審査会の開催

日時：2020年1月23日 15:00～

場所：すまいるネットセミナールーム

審査委員：佐野正明（NPO コミュニティかりば）、小林賢一（神戸すまいまちづくり公社）、橋本 彰（西神ニュータウン研究会・いきいき下町推進協議会）、森崎輝行（いきいき下町推進協議会）、池口和雄（いきいき下町推進協議会）、三輪康一（神戸すまいまちづくり公社・いきいき下町推進協議会）

#### 2) 審査経過について

応募作品は5作品であり、募集条件に合致するためこれらすべてを審査対象作品とし、作品の氏名等を伏せて番号により選考にあたりました。

- ・第1次選考：選考委員による投票を行い、議論した結果、上位の4作品について2次選考対象作品としました。各作品についてのコメントは次ページにまとめています。
- ・第2次選考：上記の意見を踏まえて第2回目の投票を行い、結果をもとに議論し、4作品を入選としました。そして最終投票を行い、作品1を最優秀賞、作品3、作品4、作品5を入賞作品としました。

なお、2020年2月15日「第4回かりばすまいを考える会交流会」において、入選作品の提案者による発表と、併せて表彰式を実施しました。

### ●入選作品提案者

	氏名	所属	備考
作品1	奥井 正造	環境意匠計画・奥井研究室	最優秀
作品3	吉田 文男	一級建築士事務所アトリエフォルム	入賞
作品4	佐藤 滯	武庫川女子大学	入賞
作品5	城田 研吾	Mono architects	入賞

■作品1 最優秀 (奥井 正造)

ひらく 道路側の外構は水玉模様様のRCと芝生で高さをお互いに開放し、南庭は床高の庭に。  
 すかす 日本昔からのデザインを利用し構成、例えば格子戸・格子欄により透かす。  
 まるく 形の基本の1つである円を主題に形態をまとめる。  
 つどう 3世代での多様な住まい方、近隣住民の住まい方に、思いを巡らせる。  
 そうき 角地に1本の象徴木と、地元の木による緑の景観を考える。  
 たかさ 起伏の道路から床高までの高低差を考慮する。  
 うごき 縦横の動きを、全ての世代で考え、融れ合う場を考える。  
 かえる 老夫婦はLDKと寝室を1階で結ばせ、若夫婦と孫達との融れ合いの機会を考える。

■北側の道路沿いの前庭の景観と機能  
 駐車スペース・自転車置き場。  
 アプローチの階段・スロープ。  
 解放された庭・美しい庭。  
 3本レベルの格子戸(戸・扉)で見え隠れ。  
 舗装はRCと地皮舗で景観と耐久性を主眼。  
 円形で美しくまとめる。

■南北断面図

2戸1住宅を3世代で住まう提案。外構では、前庭(玄関側)と後庭をつなぐ一体的な造園。円形の可動柵でデザインしている。可動柵は開放すればオープン外構ともなり、閉じれば格子塀として適度にプライバシーを確保する。ニュータウンの戸建て住宅に対して、従来型の閉鎖型外構か、オープン外構か、という課題に対する一つの解を提示している。

■作品3 入賞 (吉田 文男)

西神ニュータウンかりば地区  
 空き家活用・すまいのデザインアイデア応募作品

基本テーマ 街の活性化と良質な景観の創造

樹木の高低差は街にリズムを与える

テラスに作った煉瓦のピザ釜  
 お天気のよい日に  
 大家さんは、自分で作った自家製の煉瓦のピザ釜で  
 シェアハウスの人たちや、お友達、  
 そして地区の方々をお招きしてのピザパーティー

誰にもやさしい住宅街  
 子供とふれあえるプチ公園が街中に点在  
 ● 散歩の途中で休息できるテラスの縁のベンチ  
 ● 夏の強い日差しを避けることのできる  
 シンボルツリーはランドマークであり  
 街のアクセント

安全安心の住宅街  
 高い壁のない開放的な住宅街は  
 ● 高層を広く見渡すことができる  
 ● 遊輪や児童遊園の隠れ場所がない

高齢者が生き甲斐を見いだせる住宅街  
 子育てを終えた高齢者の新たなチャレンジ  
 ● 大家さんらほどよい距離感のシェアハウス  
 ● 駅に近く学生の利便にやさしい

空き家のない住宅街  
 空き家だ住まうことができる空き家の利活用促進  
 ● リノベーション住居の景観を守り育てる  
 ● コミュニケーションは朝のあいと夕方を与える

若者の定住促進をはかる住宅街  
 住宅街に建設可能な用途に住宅をリノベーション  
 ● 店舗併用住宅(パン屋・カフェ・ギャラリー)

さまざまな世代の人たちが互いを  
 尊重しつつ、安心して暮らせるまちへ

2nd FLOOR-PLAN

1st FLOOR-PLAN

街が抱える課題克服事例の提案 [シェアハウスにした場合]

現況図

2戸1住宅を6室のシェアハウスとして活用する提案。外構では、共用緑地に、シンボルツリー、ベンチのある小公園を、敷地内にはピザ釜を設け、居住者と近所の人がピザパーティーをすることを想定している。

■作品4 入賞 (佐藤 漣)

# かりばおさんぽスタンド

—多様な世代をつなぐ—

**西神ニュータウン狩場地区**

西神ニュータウンは1982年に神戸市北区・須磨区に計画されたニュータウン。狩場台は西神ニュータウンの一角に位置し、周辺には狩場台小学校や狩場台公園、緑地公園があり緑豊かな地域である。朝夕にはペットのお散歩風景が広がる。

**地域の様々な課題**

地域は高齢化が進んでおり高齢者や若い世代や子育て世代のつながりが少ない。居住者の高齢化人口減少、住宅や公共施設、就業施設の老朽化や衰退、空き家の数が増加が進んでいる。

**コンセプト**

- 散歩のついでに気軽によれる
- 様々な世代の人をつなぐ

**様々な世代をつなぐドッグカフェ**

住宅の隣にある狩場公園で夕方ごろに犬の散歩をしている人が多く、そこで地域の新しいコミュニティを作るためにドッグカフェを提案する。

若い子育て世代や独居老人が地域のつながりを持つようなカフェ。犬好きや動物好きが世代関係なくつながるようなコミュニティを作る。

**PLAN**

**キッチン**  
普段はオーナーが使用しているが、希望があれば使用できる共有キッチン。日替わりでシェフを変えたりイベントも開催している。  
・地域のお食事会  
・料理教室

**カフェスペースA**  
ウッドデッキと一体的に利用できるカフェスペース。カウンターもあり一人でも気楽に利用できる。

**ウッドデッキ**  
ウッドデッキがあり犬を連れて外でお茶をすることができます。ウッドデッキの一部がスロープになっており車いすやベビーカーでも利用できるようになっている。

**カフェスペースB**  
普段はカフェの一部として使用する。希望があればレンタルできる。  
◎レンタルボックス 壁際にある箱は、地域の人がレンタルボックスを借りてハンドメイドや手作りの作品を展示販売できる。  
◎大きな円卓テーブル 真ん中に大きな丸い円卓がありお客さん同士がコミュニティケーションが取れるようになっている。

**様々な用途例**

- 犬の食事療法やペットマッサージ等のセミナー開催
- 地域の人が話し切りイベントを行う
- ペットグッズのワークショップ
- 料理教室

**DETAILS**

犬好きの50代夫婦が運営するドッグ・コミュニティ・カフェ。

希望があればカフェの一部をレンタルスペースとして使用できる。犬を飼っていない人も犬、動物好きが気軽にカフェに来てくつろぐことができる。

2戸1住宅1階の大半をドッグカフェ（多様なコミュニティスペース）として、2住戸を所有する50代夫婦が「住み開き」する提案。南側からスロープでアプローチでき、ウッドデッキの屋外カフェスペースで内外が一体として使える。

■作品5 入賞 (城田 研吾)

# dot garden

**dot garden**

外構計画を植物の置か環境にすることは自然との共生した生活という面で理想的ではある。しかし、現実的には日常的な維持管理は大きな負担ではある。

計画地であるニュータウン地区において、住居の高齢化が進んでいる状況で、外構の維持管理は体力的に負担が大きく、外構スペースを狭くしてしまう。また、若い世代の転入があった場合でも日常の仕事や子育てに忙しい日々を過ごしており、小さな管理は難しいと想像できる。

計画地は緑地スペースを限定した提案である。外構エリアのすべてを緑地の可能な緑地スペースとするのではなく、配置を限定することでディスプレイのような演出効果も得られる。また、緑地スペースを限定されていることで、生活に緑を取り込みながらも維持管理の負担の軽減や作業量を減らすことが可能となる。スペースことで、植物の種類や高さを変えたり、緑物のオブジェを置いたりすることも多様な外構演出を演出することができる。

生活に緑を取り入れることは、日常に彩りを与え豊かにする要素である。そのため、住み手の生活の範囲で維持管理をしておくことも重要である。最小限のスペースであるからこそ、丁寧に外構と関わることができ、より愛着を持つきっかけとなる。住み手が外構に愛着を持ちながら丁寧に維持管理していくことが、地域の景観の向上や魅力の創出につながる。

**ディスプレイの景観と維持管理の軽減**

一般的な外構計画  
外構全体を緑地スペースとした場合、メンテナンスの日常作業負担が大きい。

限定された緑地計画  
緑地スペースを限定した配置計画とすることで、ディスプレイのような効果も得られる。同時にメンテナンスの負担を軽減する。

緑地スペースのアレンジパターン  
住み手により緑地スペースを演出することが可能。緑地スペースを限定した配置計画とすることで、ディスプレイのような効果も得られる。若い世代では、親子で緑地のエリアを分けるなど、家族間の交流や子供の自然を育むような活用方法も提案する。

**緑地スペースのディスプレイ**

住み手により緑地スペースを演出することが可能。緑地スペースを限定した配置計画とすることで、ディスプレイのような効果も得られる。若い世代では、親子で緑地のエリアを分けるなど、家族間の交流や子供の自然を育むような活用方法も提案する。

**外構の景観プラン**

緑地スペースを中心とした外構計画  
緑地スペースを限定した配置計画とすることで、ディスプレイのような効果も得られる。同時にメンテナンスの負担を軽減する。

緑地スペースのディスプレイ  
住み手により緑地スペースを演出することが可能。緑地スペースを限定した配置計画とすることで、ディスプレイのような効果も得られる。若い世代では、親子で緑地のエリアを分けるなど、家族間の交流や子供の自然を育むような活用方法も提案する。

中置木	茶室	オブジェの配置	石の配置
デッキ、タイル貼	テーブルやベンチの配置	空部マウンド	その他 住み手の嗜好、趣向やオリジナリティある演出が提案可能

2戸1住宅をそれぞれ2世帯で所有するが、外構は協調してデザインされる。とくに外構の緑地スペースを限定的にデザインすること（ドットガーデン=ディスプレイの景観）で高齢者や若い世代の庭に対する維持管理の軽減をねらいとしている。ドット型緑地スペースのアレンジパターンの提案で個性的な外構の可能性がうかがえる。